

東京・墨田区町工場見学ツアー



企画：情報誌「WIRED」日本版

今回の工場見学はWIRED13号の特集「未来のものづくりのエコシステム」墨田区「FABタウン計画」の立体化として企画された。墨田区内に拠点を置く浜野製作所、墨田加工、金星ゴム工業の3社を訪問し、事業内容の説明、工場見学と簡単な体験を通じて、東京の住宅密集地でもある下町エリアでのモノづくりの現状を肌で感じ、今後のあり方を考えるという。

参加者は2030代中心の35人。学生や若手研究者、デザイナー、経営者の、墨田加工、金星ゴム工業の3社を訪問し、事業内容の説明、工場見学と簡単な体験を通じて、東京の住宅密集地でもある下町エリアでのモノづくりの現状を肌で感じ、今後のあり方を考えるという。

ビジネス・ライフスタイル情報誌「WIRED」(ワイアード)日本版は9月27日、WIRED読者を対象とした「WIRED FIELD TRIP 墨田区町工場見学ツアー」を開催した。同イベントは日刊工業新聞社とモノづくり日本会議のほか、リパネス、すみだ地域ブランド推進協議会、スミファの協力で実施された。

体感下町モノづくり

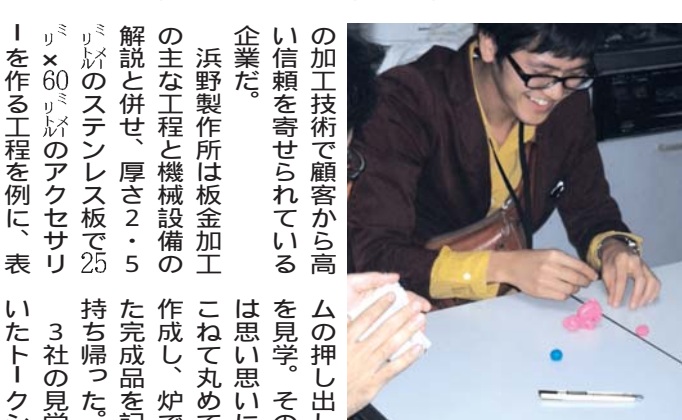


ブレートの磨き具合に興味津々の参加者たち(浜野製作所)

だ質疑も行われていた。工場見学は3班に分かれ、3社を順繰りに訪問。1社当たり1時間15分ずつで、その中で会社説明と施設見学、簡単な体験をこなすという少人数のスケジュールだったが、多くの参加者が高い満足度を得られた内容となった。

高付加価値

今回工場見学に訪れた



ゴム粘土をこねていると重心に帰る(金星ゴム工業)

挑戦した。金星ゴムの加工技術で顧客から高い信頼を寄せられている企業だ。

浜野製作所は板金加工の主な工程と機械設備の解説と併せ、厚さ2.5mmのステンレス板で25リットルのアクセサリを作る工程を例に表した。

3社の見学終了後に開いたトークショーは年寄りの参加者が多かった。

墨田区内にある工場の全数調査経験のある長谷川CAOは、新しいことを何もやってない、やるうとしない企業が退場するのは当然と厳し。

一方で、製造の手だてを保持しない研究開発型ベンチャーとの協力で成果を生んでいる町工場もある。将来を決めるのはモノづくり企業としての志だ、とエールを送った。

少子化時代

が、当時も回転ドアや自動車、家電、日用品など、大人の気が付かない使用方で子どもが死傷する痛ましい事故が起きていた。高齢化社会とともに、少子化時代も迎え、社会が子どもをより大切に育てなければならぬ。産業界にも子ども目線で安心安全なモノづくりが

グローバルな経済環境の変化や、資源・エネルギー問題、環境問題、人口問題、新興国の台頭など、わが国のモノづくり産業が直面する問題は厳しさを増している。さまざまな制約を乗り越えるために、産業界もそれぞれの企業にもイノベーションが求められる。大きな変革の先には「新たな日の出」が待っているはずだ。モノづくり日本会議の会員トップに「モノづくりのこれから」を聞く。

和田 勇氏

積水ハウス会長兼最高経営責任者(CEO)

必要だという機運が盛り上がり、それを「キッズデザイン」と定義して、経済産業省などの支援も得て取り組んできた。顕彰事業の「キッズデザイン賞」をはじめ、理念の普及・啓発、調査・研究、安心安全の工夫や改善を認定する「CSD認証」を実施している。

活動の成果は「消費者と直接かかわるあらゆるモノづくりを対象として、これまで約30種類の業界の代表的な企業に会員になっていった。」「なぜ住宅メーカーの



協議会、安心安全の工夫や改善 認定



キッズデザインの活動はライフワーク...と和田さん

トップが会長なのかといえば、それは安心安全は日常生活の中心にある住宅にこそ基盤がある。と考えるからだ。周囲からも会長をやれと説得された。積水ハウスとしても率先し、キッズデザインを実践してきた。子どもの安心安全を考えた住宅設計は論外、という意識が根づいている。自身にとっても、キッズデザインの活動はライフワークになってきた。

子育て大切に

キッズデザインは目に見えやすいものが分かるやすいですが、どのように見えても、その本質は核家族化が進み、孤立や疎外の問題も深刻化している。このように住宅の開発にも子育てを大切にす

日本品質アピール 輸出促進にも生かす

ない。そこで、会長として企業のトップに直談判し、入会してもらった。入会してからは、取り組みの継続には経営トップの意識が大切。このため年に一度は会員のトップが集まり、認識を高める会合も始めている。引き続き粘り強く啓発する必要がある。当面の目標は、

「協議会では『子どもを育む環境の高度化に必要な100業界』を設定している。そのうち会員業界がカバーしているのは30業界で、まだ片寄りがあ。特に衣食や日常の暮らし、遊びにかかわる業界のトップ企業に入会してほしい。安心安全は日本の優れたクオリティの一つといえる。それをキッズデザインでも優位性としてアピールできれば、輸出の促進にもつながる。政府が日本の文化的産業の魅力を海外に情報発信する『クールジャパン』の取り組みにも、キッズデザインが盛り込まれている。国民一体で普及に励み、日本企業のグローバルな競争力向上に結びつけたい」

企業継続 人の力と志

のブランニングやモノづくり教育に生かしたいといった向学・啓発から、自分が手がける商品企画の実現を相談したいという具体的なことまで、参加の動機はさまざま。一人一人がはつきりとした参加意識を持っており、訪問先企業の社長の説明を聞く様子も真剣そのもの。かなり突っ込んだ

面研磨やレーザー刻印などの実演を紹介。参加者は加工物を取り出した際のバリを、ベルトサンダーや手持ちのヤスリで削り取る作業を体験した。墨田加工ではシート材の真空成形とその後の切断・穴あけ加工を見学した。また、アクリル板を専用の溶剤で接着して貯金箱を組み立てる工作に

モノづくり日本会議

モノづくり日本会議

—モノづくり推進会議 NextStage—

「モノづくり日本会議」は、2007年9月に設立した「モノづくり推進会議」での活動を土台に、広域企業ネットワークや他機関との連携を活用し、日本のモノづくり産業の強化に役立つ実践的な勉強会・シンポジウムなどのイベントや交流会などの活動を展開しており、日刊工業新聞社が事務局を務めさせていただいている団体です。

少子高齢化、環境対応、資源・エネルギー問題など様々な課題を乗り越え、「超」モノづくりの推進をテーマに、事業を進めております。

先進的な技術やノウハウを有する会員企業をはじめ、多彩な連携機関のご協力をいただき、モノづくり産業のさらなる発展を目指して事業を展開し、モノづくり産業の競争力強化につながるよう、地域間、企業間連携をおこない、ビジネスマッチングなども図っていきます。

モノづくり日本会議の事業

「グローバル競争力強化関連事業」

■モノづくり力徹底強化検討会

■サプライチェーン強化検討会

■人材育成関連事業

■長寿企業イノベーション勉強会

「新産業・ビジネス創出／ビジネスモデル構想力向上検討事業」

■ネイチャー・テクノロジー研究会

■新産業創出検討会

◇新産業技術促進検討会

◇農工商連携勉強会

■ロボット研究会

その他の事業コンテンツ

■交流・マッチング事業

■顕彰事業

●モノづくり部品大賞

■モノづくり推進シンポジウム

■特別講演会

■地区別研究会

◇中部地区研究会

各事業の詳細は、モノづくり日本会議ホームページ (www.cho-monodzukuri.jp) をご覧ください。

●お問い合わせ先● モノづくり日本会議事務局 〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1 (日刊工業新聞社内) Tel: 03-5644-7608 Fax: 03-5644-7209